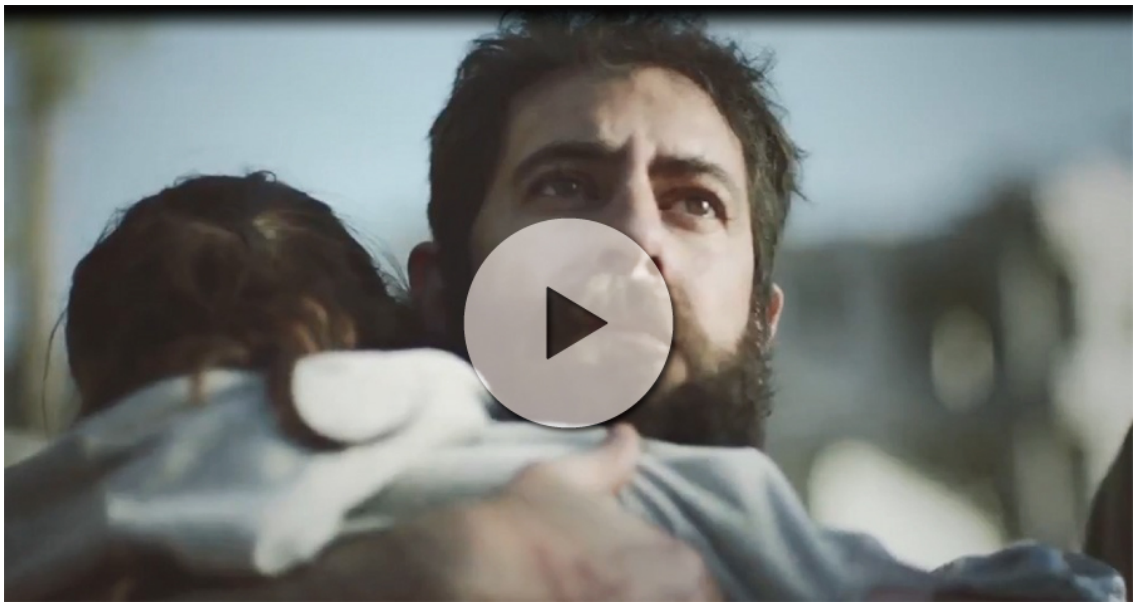
正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

ICRC

赤十字国際委員会 ニュースレター

4月号 2021



『希望：彼女の命を救えなかった理由』

ICRCが「Health Care in Danger ~危機に立つ医療活動~」のグローバルキャンペーンの一環で制作したショートフィルム。世界最大規模の広告の祭典、カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバルのフィルムクラフト部門でグランプリを受賞。

今からちょうど５年前の2016年５月３日、国連安全保障理事会は、紛争下の医療を保護する決議第2286号を採択。日本政府がイニシアチブを取ったこの決議は、全会一致で採択されたにもかかわらず、５年経った今も医療への攻撃は後を絶たちません。2016-20年には、ICRCが把握しているだけで3,780件の攻撃があり、３分の２がアフリカと中東に集中しています。

私たちは、そうした現実に目を向けてもらい、遠い国の出来事を自分事として感じてもらえるようこのムービーを制作しました。

安保理決議についてはこちら（外務省ウェブサイト）



国境なき医師団（MSF）と赤十字国際委員会（ICRC）は、人道援助をめぐる諸問題を共に考える「人道援助コングレス東京　2021」を、５月13日、14日に共同開催します。「人道援助の未来――真に、“誰一人取り残さない”ために」をテーマに、人道援助の現場を知る識者が、紛争ぼっ発から10年が経ったシリア、気候変動が紛争犠牲者にもたらす諸問題、コロナによる女性と子どもの健康への二次的影響について問題提起し、「未来」を見据えた活発な意見交換を促します。



＜開催概要＞

- 日時： ５月13日(木) 17:00-21:30 ／14日(金) 17:00-21:40
- 言語： 日英同時通訳
- 募集人数： 最大1000人
- 参加費： 無料
- 参加申込締切：５月14日（定員になり次第、締め切らせていただきます）

＜プログラム＞

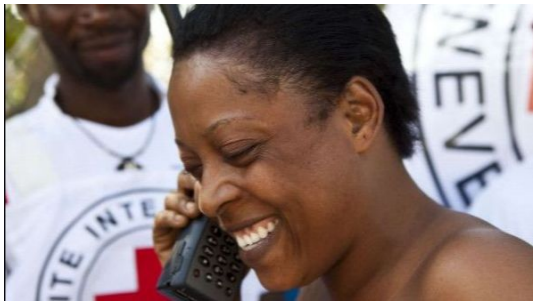
５月13日（木） 17:00-

- Opening Session「人道援助の未来―真に、“誰一人取り残さない”ために」
- Session １：破壊と喪失の10年―シリアが背負う大きな代償

- Session ３：女性・子どものヘルス分野における数十年の成果からの大幅な後退：新型コロナウイルス感染症の二次的影響

詳細・事前登録はこちら

世界のトレンド



宇宙空間での兵器使用による被害と国際人道法上の保護

宇宙空間での兵器の使用は、人類に甚大な被害が及ぶ可能性があり、人工衛星などが攻撃された場合の被害は、人道上の問題として捉えることができます。本記事では、ICRCが作成して国連事務総長に提出したポジション・ペーパーの詳細にも触れています。

詳細はこちら



「人道ビザドール賞」作品募集のお知らせ

この度、プロのフォトジャーナリストを対象とした、第11回人道ビザドール賞のエントリー作品を募集します。テーマは「都市部での戦闘から逃れる人々」です。受賞者には、ICRCより副賞8,000ユーロ（約105万円）が授与されます。

詳細はこちら

日本人に知ってもらいたい！

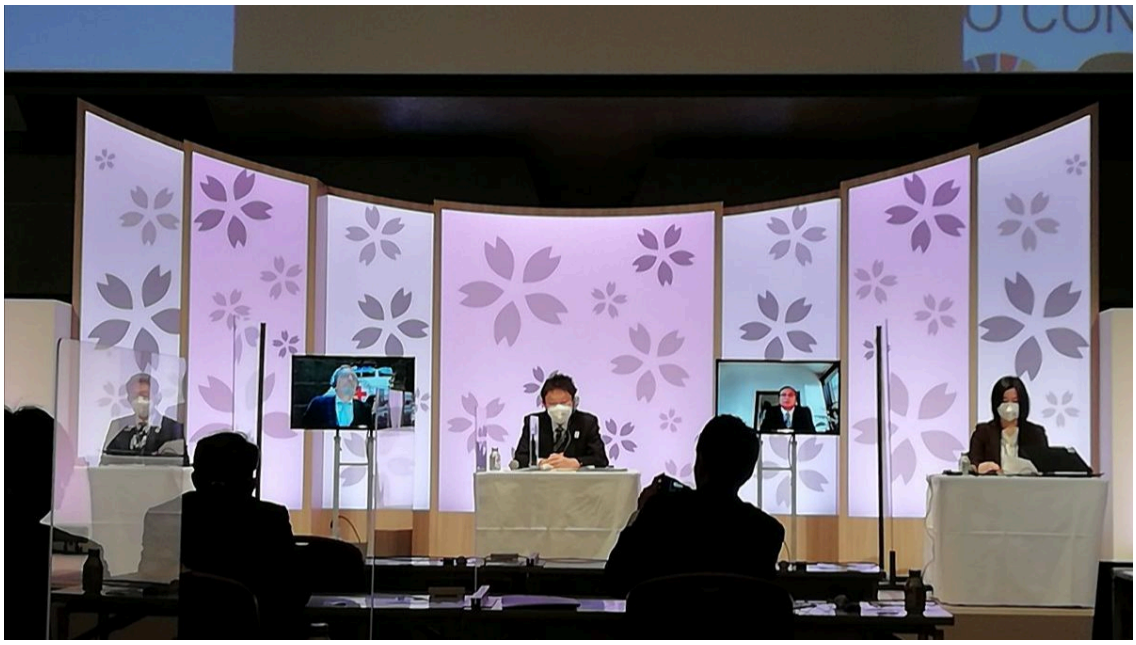


「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」（SSFF & ASIA）は、1999年に始まった米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭で、ICRCは戦後70年を機に「戦争と生きる力プログラム」を立ち上げました。７回目の今年は６月11日（金）よりオンライン上映します。



ICRCは毎年、SSFFに合わせて表参道にあるカフェ・ル・ポミエさんにご協力いただき、オリジナルチャリティープレートを提供しています。今年は例年行っている表参道店に加え、４月にオープンした麻布十番店でも５月１日～６月30日までの期間で提供します。チ

詳細はこちら



「国連犯罪防止刑事司法会議」in京都
～ 塀の中の人間の尊厳や健康にも配慮を～

「第14回国連犯罪防止刑事司法会議」、通称「京都コングレス」が、2021年３月に開催されました。主に紛争地で収容所などの矯正施設を訪問しているICRCも連日オンライン登壇し、意見交換を行いました。本記事では会議の詳しい内容も掲載しています。

詳細はこちら

紛争の現場から



ソマリアの離散家族
～父との再会を心待ちにして～

「父と最後に会ったのは５年前。私が15歳の時、父は突然消息を絶ってしまった」とハサン・サイードさんは語ります。しかし2020年初頭に父親からかかってきた電話がきっかけ



今のミャンマー情勢について―
ICRCによる声明（３月28日付）

赤十字国際委員会（ICRC）は、ミャンマー各地で続く暴力沙汰により、死傷者や被拘束者の数が増加し、人道上の被害が拡大していることに危機感を募らせています。

詳細はこちら

日本人職員インタビュー



2019年から約１年３カ月、ウクライナに保護要員として派遣された森山成基さん。現地の状況や担当した仕事、ICRCで働きたいと思っている方たちへのメッセージなどをお伺いしました。

詳細はこちら

駐日代表部だより



人道危機の真っただ中にいる人々、どうしたら普通の生活に戻れるのか？そのためにはテクノロジーをどう有効活用できるのか・・・？早稲田大学副総長の笠原博徳氏とレジス・サビオ駐日代表はこの日、イノベーション関連の共同研究開始に伴い、様々な分野におけるコラボの可能性について意見を交わしました。

詳細はこちら

その他のニュースはこちらへ

© 2021 INTERNATIONAL COMMITTEE OF THE RED CROSS

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

INTUIT mailchimp